

令和6年度

## 認知症対応型共同生活介護【認知症高齢者グループホーム】（介護予防含む）

法人名称	協立福祉有限会社
事業所名称	グループホームふきのとう
事業所所在地	東京都足立区舎人1丁目21番18号
事業所電話番号	03-3890-3343

### 事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）	1) 人として その人らしく 心豊かに。 2) 一人一人の利用者に合わせた自立支援。 3) 利用者の日常生活の充実と健康管理。 4) 地域の一員として地域と交流し、地元に貢献すること。 5) 職員の知識と技術の向上。

### 全体の評価講評

#### 💡特に良いと思う点

- **利用者のケース検討を通して、他の職員の取り組みを等を確認して、利用者への向き合い方などを見つめ直す機会を設けています**

利用者に対して適切な支援を提供していくために「虐待の芽チェックリスト」を活用して自らの言動や行動を振り返る機会を定期的に設けています。今年度はさらに深化させ、各フロアから利用者1名を選出して、支援上困っていることや、他の職員が行っている支援で疑問に感じている事、利用者がどのような時に不穏状態に陥るのかについて全職員で事例検討を行っています。他の職員の取り組みなどを確認できたことで利用者への向き合い方を改めて見つめ直す機会につながり、適切な支援を提供していくための振り返りとしても大きな成果となっています。

- **ホームでの各種の生活リハビリを通して生活機能の向上が図られ、病院から退院後、回復が早いこともホームの強みとしています**

ホームでは毎朝時間を決めて、近隣公園までの散歩を日課としています。多くの利用者が散歩に出かけていることで、下肢筋力の低下防止につながり、健脚である利用者が多いなどの成果が出ています。散歩以外においても体操や風船バレーで身体を動かしたり、買い物同行や掃除、調理準備等の家事活動への参加などで活動性を高めています。よって病院から退院後の利用者は、入院前よりも体力やできる事などが低下しているケースでも、ホームでの各種の生活リハビリを通して生活機能の向上が図られ、退院後の回復が早いこともホームの強みとしています。

- **すべてのフロアにおいて、利用者は職員と馴染みの関係が築けていて、常に明るく笑顔が絶えないホームであることを強みとしています**

ホーム全体で共通していることは、すべてのフロアの利用者に笑顔が多く、職員と馴染みの関係が築けていることがホームの特徴であると思います。訪問するたびに利用者から「ここは素晴らしいところ」と来訪者にも笑顔で伝えてくれます。職員の配置もすべてのフロアで過不足なく配置できていることで、職員一人一人にゆとりがあり、見守りもただ見守るのではなく、利用者が危険な時にはすぐに駆け付けられる距離で見守っています。利用者とも冗談を言いながら常に明るく笑顔が絶えないホームであり、利用者が心から楽しんでいる様子が見えます。

#### ✔さらなる改善が望まれる点

- **ICT化を通して業務の効率化を図ることができるように、段階的に各種の取り組みが発展していく事を期待します**

現在ホームではICT化を計画的に進めていて、今年度は利用者及び業務の申し送りを専用のアプリケーションを活用して、職員が所持するスマートフォンを通して共有化を図れるように取り組んでいます。現在は利用者及び業務の申し送り事項を共有出来るように試験的な導入を進めています。今後はこのアプリケーションを通して会議録の共有や動画配信を通しての研修受講、さらにはウェブ会議にまで発展させていきたいと考えています。ICT化を通して業務の効率化を図ることができるように、段階的に各種の取り組みが発展していく事を期待します。

- **全体で一同に集まるのではなく、フロアごとに日程を分けて開催するなど、少しずつ家族との交流が前進していく事を期待します**

家族参加の行事については、一同で集まったの行事とまでは至っていませんが、10月にホーム前で実施予定としている芋煮会には家族の協力を得て進めていく事を予定しています。面会にも足を運ぶ家族が少しずつ増えており、ホームとしてもコロナ禍前のようにホームの行事に家族をお呼びして交流を深めていきたいと考えています。しかしながら交流を通して再び感染が拡大してしまう恐れもあるため、例えば飲食は避けて、全体ではなくフロアごとに日程を分けて開催するなど、少しずつ家族との交流が前進していく事を期待します。

- **例えばホームページやSNSを開設して、ホームの取り組みを共感できる人材の採用に向けた更なる取り組みも期待します**

常勤職員や夜勤可能な職員の採用を目指して、ホーム玄関先に設置している掲示板に募集案内の掲示や、区の介護人材フェアへの参加、介護人材雇用創出事業を活用して、新規職員の採用に努めています。多岐に渡る採用方法において、計画的に人材を採用することができていますが、現状のホームの取り組みを広く発信して、強みをさらに伝えていけるように、例えばホームページやSNSを開設してホームの良さや強みを積極的にPRしていくなども今後効果的であると考えます。ホームの取り組みを共感できる人材の採用に向けた更なる取り組みも期待します。

## 事業者が特に力を入れている取り組み

- ★ **生活の主役は利用者であるというホームの基本方針に沿った支援を提供しています**

ホームでは、生活の主役は利用者であることを大切な考えとしています。その実現に向け「利用者様が主役になる支援のために」と題した冊子を作り、年度当初の会議で全職員で再確認しています。日々の支援の中でも利用者主役の考えが随所に見られています。レクリエーションで活用する歌詞カードを利用者の年代に合わせて曲をアップデートしたり、利用者との会話をする際にも利用者様が得意としていることや興味のある内容をテーマにしています。職員側の都合に合わせてではなく、ホームでの生活は利用者主体という考えを全体で共有して実践しています。

- ★ **必要な知識やスキルが身につけられるように、学ぶ機会を数多く提供しています**

グループホームで勤務するうえで必要な知識やスキルが身につけられるように、学ぶ機会を数多く提供しています。ホーム内では研修計画に沿って毎月勉強会を開催しています。また外部の研修として区が社会福祉協議会に委託した研修に毎回多くの職員を派遣しています。精神疾患のある方とのかかわり方やバランスの良い栄養の取り方、感染症や食中毒の予防などについて学んでおり、研修参加者はフロア会議内で報告して研修内容を共有しています。内外の研修を通して必要なスキルや知識を身につけて、利用者主体の支援の実現化につなげています。

- ★ **ICT化により、必要な情報をリアルタイムで共有できる仕組みを構築しています**

現在ホームではICT化を計画的に進めていて、今年度は利用者及び業務の申し送りを専用のアプリケーションを活用して、職員が所持するスマートフォンを通して共有化を図れるように取り組んでいます。アプリケーションの使用にあたり、独自に「運用規定」を策定して、メッセージへの返信は不要であることや、勤務外での活用についても運用規定に明示して、職員が負担なく活用出来るように試験的に導入しています。ICT化の導入に戸惑う職員も少なく、現在は大きなトラブルなく運用を進めていて、今後は会議議事録の共有化なども検討しています。

## 利用者調査結果

### 調査概要

- **調査対象**：令和6年8月現在、グループホームふきのとうに入居する利用者26名と26名のご家族を対象に実施しました。
- **調査方法**：アンケート方式,場面観察方式  
利用者に対しては、場面観察方式での調査を実施しました。ご家族へは送付状、アンケート用紙、返信用封筒を評価機関で準備しホームの封筒にて26名のご家族に送付して頂きました。
- 利用者総数：26人
- 利用者家族総数（世帯）：26世帯
- 共通評価項目による調査対象者数：26人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数：17人
- 利用者家族総数に対する回答者割合（%）：65.4%
- 調査項目：[共通評価項目](#)

### 場面観察方式の調査結果

調査の視点：「日常生活の場面で利用者が発するサイン（呼びかけ、声なき呼びかけ、まなざし等）とそれに対する職員のかかわり」及び「そのかかわりによる利用者の気持ちの変化」

### 評価機関としての調査結果

#### 調査時に観察したさまざまな場面の中で、調査の視点に基づいて評価機関が選定した場面

食事前の口腔体操の時間となり、リビングで過ごしていた利用者は、職員から口腔体操を始めることを伝えられると準備を始めて、職員が模造紙に書いてある言葉を指すと、その言葉を利用者は声に出していました。リビングの一角では一人の利用者が口腔体操が始まった後も、別の職員との会話を楽しんでおり、気持ちがとても高ぶっている様子でした。しかし職員との会話が途切れたタイミングで、口腔体操を担当していた職員から声をかけられるとスムーズに輪の中に入り、少しずつ気持ちが落ち着いたのか、いつもの食事前のペースに戻っている様子でした。

#### 選定した場面から評価機関が読み取った利用者の気持ちの変化

評価者の来訪もあったため、少し気持ちが高揚していた様子でした。職員との会話でも多少興奮気味で会話をしていたため、いつものペースに戻れるように職員もタイミングを見計らっていたように思います。会話が途切れた段階で、口腔体操を担当していた職員から、「〇〇さんもうぞ」と声をかけられたことで、本人にとっても気持ちが切り替わる良いタイミングであったように思います。口腔体操に加わり、体操後しばらくすると、少しずつ気持ちが落ち着いてきたように感じました。無理に気持ちを切り替えて頂くことはせずに、その方のタイミングに合わせて声をかけることができたことで、自然な形で気持ちの高ぶりを抑えられたように感じました。

### 「評価機関としての調査結果」に対する事業者のコメント

形式的に、「こうだから、こうしていく」というやり方ではなく、利用者一人一人の状態によって、対応方法は異なるものだと思います。今回のケースでは自然の流れの中で、次の流れに移って頂きましたが、利用者によっては、一旦流れを止めてから、一呼吸置いて、次の流れに行くなど、個々に対応は異なります。よって、形式的な対応は利用者にとっては混乱を招いてしまうため、利用者一人一人の状態に合わせて対応していく事で利用者が混乱なく、次の流れに移行できるように支援していく事をこれからも大切にしていきたいと思っています。

1. 家族への情報提供はあるか	はい 100%
2. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	はい 100%
3. 職員の接遇・態度は適切か	はい 100%
4. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	はい 100%
5. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	はい 82% □いいえ：0% □無回答・非該当：6%
6. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	はい 100%
7. 利用者のプライバシーは守られているか	はい 100%
8. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	はい 100%
9. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	はい 100%
10. 利用者の不満や要望は対応されているか	はい 100%
11. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	はい 94% □どちらともいえない：0% □いいえ：0% □無回答・非該当：6%